

核禁条約に署名・批准を

第47回国鉄原爆死没者慰霊式

第47回国鉄原爆死没者慰霊式が原爆投下から74回目の「原爆の日」を迎えた8月9日、浦上駅構内の慰霊碑前で営まれた。

長崎地区本部の上之濱書記長が、第二次世界大戦終結から74年が過ぎてなお戦争や紛争、テロが繰り返されている現状に、「核と人類は共存できないという立場からあらゆる国の核兵器に反対し、原爆被爆地の広

島、長崎から二度と戦争に向かわせない取り組みと闘いを強化する」と開式の挨拶を行った。

黙とうの後、島田執行委員が慰霊碑に刻まれている碑文「てんをうつな」を厳かに朗読。

慰霊式実行委員会を代表して豊田

執行委員長は、猛暑の中の多くの参列と慰霊碑の維持・管理に協力を得ている鉄道退職者の会やJR九州会社に謝辞を述べ、核兵器禁止条約への署名・批准に否定的な安倍首相に「被爆者や多くの国民が怒り、抗議が続いている」と唯一の被爆国の政府が核兵器廃絶へ一層の指導力を発揮するよう求めた。

また、発生から8年が経つ東日本大震災による福島第一原発事故で見通しが立っていない汚染水対策や燃料取り出しなど未だ原子力緊急事態

宣言が解除されていない現状に、「原発再稼働に反対し再生可能エネルギーへの転換と脱原発社会の実現に向けて原発を含めたあらゆる核廃絶運動を強化しよう」と訴え、「諸先輩の被対協運動の意思を継ぎ暴走する安倍政権を許さず核廃絶と世界の恒久平和を強く訴え続ける」と挨拶した。

九州本部千々岩執行委員長は、「広島・長崎の被爆者の平均年齢が83歳と高齢化が進み限られた時間の中で多くの課題の解決が急がれている」と訴え、「核兵器禁止条約」に関し、「唯一の被爆国である日本政府は署名・批准に反対し条約会議にも参加しなかつたことが残念」と指摘。「真の平和を確立するため戦争と原爆の悲惨さを後世にしっかりと伝え、あらゆる核兵器開発、核実験に反対していく決意をあらためて誓う」と尊き御霊に松川中央執行委員長の追悼の言葉を代読した。

JR九州長崎支社小西総務企画課長は、被爆地へいち早く救援列車を動かす我が身を省みず国鉄職員としての使命を全うされた諸先輩方に深く敬意を表し、JR九州の社員一人ひとりが「命」の尊さを再認識し「ゆ

るぎない平和を築き上げていく」と決意を新たにされた。また、2020年春の立体交差事業の長崎駅・浦上駅開業、2022年春の九州新幹線西九州ルート開業の進捗状況を報告し、「今後とも諸先輩方が尊い命をかけて守りぬいた九州の鉄道を愛され親しまれる鉄道にしていこう」と西川長崎支社長の追悼の辞を代読した。

神近副委員長によるメッセージの披露のあと献花を行った。関係者、遺族など約80人が参列した。(米満)



【追悼の辞を述べる九州本部千々岩執行委員長】



【JR組合員・退職者幹事会合同の清掃 (7月24日)】